



大学生と運送事業者らが参加した

7大学の物流ゼミ生が研究発表

「人手不足解決」など提案

7大学が参加した「物流関連ゼミ生による研究発表会」が11月22日、東京海洋大学品川キャンパスの大講義室で開かれた。主催は、川崎陸送(本社=東京)社長の樋口恵一氏が会長で、中小運送事業者などで構成する「NS物流研究会」。今回で6回目。大学生や運送事業者などが参加した。

NS物流研究会主催

この研究発表会は、大学が初参加した。学部の物流ゼミ生が業界の抱える諸問題を分析し、解決の提案を大学対抗形式で発表するもの。神奈川県大学、東京海洋大学、流通経済大学、流通科学大学、目白大学、大阪産業大学に加え、同志社大

開会あいさつした樋口会長は、現在の物流業界を取り巻く状況は「グローバル化」と「人手不足」と指摘。米国の大学と比べ、日本の大学での物流関連の学部・学科などが

のため、将来、物流業界で活躍する「人材育成」が不可欠と研究発表会の趣旨を述べた。

各大学の研究テーマは、業界の緊急課題の1つのトラックドライバーの人手不足問題がゼミ生にも関心が最も高く、東京海洋大学、大阪産業大学、神奈川大学の3大

学が発表。中小運送事業者の共同化を流通経済大(東京海洋大学)を提案するなど、いずれの大学も斬新な発想。各発表後、質疑応答も行われ、「それはビジネスとして利益になるのか」「人手不足の解決策として、旅客自動車運送(バス)があった。」